

1. 授業のねらい・概要

スマートフォンやタブレットパソコンの普及に伴い、これまで以上にデジタル化されたコンテンツを利用する機会が増えている。従来は、デスクトップパソコンやノートパソコンを前提に、アプリケーションや Web ページの設計が行われていた。しかし、スマートフォンやタブレットパソコンのようなデバイスに採用されているタッチパネルを考慮した設計の重要性が増している。さらに、このようなディスプレイの小さなデバイスでの利用を想定し、情報の整理と分類を行うインフォメーションアーキテクチャの知識や技術を身につけることも重要となっている。

本講義では、Web デザインのヒューマンインターフェースに着目し、インフォメーションアーキテクチャの考え方や目的を理解し、ユーザビリティやアクセシビリティを考慮した設計手法を習得することが目的となる。

2. 授業の進め方

Web デザインにおけるユーザビリティやアクセシビリティの考え方や、ユーザビリティを向上させるための手法を学ぶため、講義と合わせてコンピュータを利用した実習を行う。

3. 授業計画

1. ヒューマンインターフェース	9. サイトストラクチャ
2. ユーザビリティ	10. ナビゲーションパターン
3. アクセシビリティ	11. ユーザ行動の画面設計
4. インタラクティブシステム	12. ワイヤフレームの設計
5. インタフェースデザイン	13. ケーススタディ
6. ユーザエクスペリエンスデザイン	14. 評価手法
7. 情報の整理と分類	15. まとめ
8. メニューの最適化	

4. 到達目標

アクセシビリティやユーザビリティを意識した設計や評価を行えるようになること。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

公開されている Web ページを取り上げ、ユーザビリティの観点から評価してみる（30分程度）。

6. 成績評価の方法・基準

受講態度、実習課題の成果物、期末試験を総合して評価する。

7. テキスト・参考文献

テキスト：株式会社ビービット、『ユーザ中心ウェブビジネス戦略』，ソフトバンククリエイティブ，2013 年

8. 受講上の留意事項

スマートフォンやタブレットパソコンでは様々なコンテンツが提供されているので、これらのサービスを利用しながら、ユーザビリティやアクセシビリティについて考える習慣をつけてみる。ヒューマンインターフェースとデザインの結びつきについても考察してみるとよい。